

どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

4月号(NO67)通巻 217号

2024年4月10日(水)発行(毎月10日)

【農暦】じゃが芋を彼岸まで待つて植えた。草対策を考えマルチ掛けにした。!

○なかなか暖かくなれないと思っていたら、急(31日)に夏日には驚く。やっと寒さから解放されたと思ったら、いきなり夏日には驚いた。何を着ていいか戸惑う。運動もしていないのに汗ばむ。東京都心で28.1度が観測された。7月上旬並みの気温で、3月の最高気温25.3度を大幅に更新したという。この陽気に誘われてか、いつもの散歩道で桜を待てず酒宴をしている人がいた。

○スマホに桜満開の写真が日付を見たら2023.3.27だった。東京の開花時期は最も早いのは3月11日で遅いのは4月11日だという。これからは振幅も大きくなるのかもしれない。4日には開花が始まったが、今日(9日)は風雨に晒されている。花冷え、春嵐などの言葉もある。桜は特別なものなのである。桜並木の下を散歩をと思う。

○最近、感じるのだが、晴と雨が交互に来ているような気がする。

雨の翌日は決まって晴れる。台風一過という言葉があるが、台風の後でないのに、抜けるような青空になる。そんな日が多い。地球の自転で西から東へ天気は移動する。気候が温暖化の影響でか、それが極端化してメリハリが強くなっている?。雨と晴は西から東で、暖気と寒気は南北に変化する。海流や気団のこともある。どうも日本はその狭間にあるようだ。機会があれば気象予報士に聞いて見たいものである。

○春の陽気に誘われて、園芸店でペチュニア5株を購入し、寂しくなった庭の空いた鉢に植えた。野菜の苗もだが、花を植えている時はチョットした高揚感?の様なものがある。ペチュニアの花言葉は「心のやすらぎ」だと云う。特に畦地の野の花は素晴らしい。春先の草刈りには躊躇いがある。だが、あつという間に繁茂する。

○じゃが芋を彼岸まで待つて植えた。草対策を考えマルチ掛けにした。

自家種芋の残りがあり追加で一畝植えた。ご近所さんから頂いたネギ苗を一畝植えた。空豆、スナック豆の苗を少し植えた。大まかな作付け計画はあるのだが場当たりになりそうなので注意したい。牛糞堆肥なども入れたい。やることが多い。菜園時間を多くしたいと思う。(了) *先月号の那須岳は三斗小屋から茶臼岳の誤り。

【楽農】<畑>草花を植え、空豆、スナック豆の苗植え、じゃが芋を植え。ネギ苗植え、耕起と草刈り始める。栗の苗木1本植え、猪?に根付き心配。

【楽市】イベント等; 詩吟例会(11・21・4日) 飲み会(31日) 誕生会(19日) 地区の集り(23日) ふれあい大学ノルディック講座(6日) 地区の総会・花見の会(7日)



<庭の椿>29日撮影



<じゃが芋植え>23日撮影

【つぶやき=Tweet】4月から食品やトイレットペーパーなどの多くが値上になる！

○ “日本では、社会的発言をすることが特別視されすぎなんですよ。竹田ダニエル
「投票に行こう」と言っただけで叩かれたり、逆に「声を上げてくれてありがとう」と感謝されたり。「一喜一憂の振り幅がすごく大きい」と米国出身のライターは言う “と折々のことば (27日) にあった。出る釘は打たれるの諺があるが、目立った行動は体制に寄り添わない限り批判の対象になる。専制的な政権では特にそうなる。安倍政権時代に付度という言葉が多く使われるようになった。異を唱えると叩かれる。自由闊達は建前だけのものになる。異を言えず居心地悪い世間かな(虎)202204 と川柳を詠んでいた。

○ “「この国は、なぜこんなにモノが言えなくなったのか」と、忌野清志郎さんが亡くなった年(2009)、生前の坂本龍一さんと熱く語り合ったことが強く記憶に残る。「坂本さん亡き今だからこそ、誰かが言わなければ」と、逡巡しながら、その思いを伝えてもらった(金平茂紀・朝日新聞デジタル)”とあった。忌野清志郎と言えばパパの歌がある。作詞は糸井重里で当時は売れていた。今聴いて見れば心に響くものがある。

○折々のことば(30日) 続きになるが “いちばん助けが必要な人たちを助けること。半世紀前、貧困層と富裕層への社会の二極化を憂えた英国の経済学者(E・F・シューマッハー)。は、地方社会の疲弊にまず眼を向けた。そして経済指標より、人々の雇用機会と内容を充実させる必要を訴えた。この必要はその後昂じる一方だったが、グローバルな要因が複雑に絡むようになり、それを透視することもさらに難しくなった(スモール・イズ・ビューティフルの著書で)”とにあった。当に、今の日本である。イギリスでは半世紀前に起っていたのだ。

○4月から食品やトイレットペーパーなど生活に欠かせない商品の多くが値上になる。その数はおよそ2800品目になると言う。4月は今年2番目の値上げラッシュとなると云う。2023年における家庭用を中心とした飲食料品は累計1万品目を超えた。富裕層や春闘の恩恵を受けた人はともかく貧困層には死活問題になる。年金生活者には辛いものがある。好循環は富裕層にのみあるようだ。植田日銀総裁の政策、岸田首相の好循環はこれだった。人間中心の経済学の英国学者に学んで欲しいものである。

○ “もしも宇宙人がいまの地球を見たら、人類とは何とも不思議な生き物だと思いに違いない。捨てるほど食料があっても、飢餓で苦しむ人がいる。互いに争い、傷つけあう”(天声人語6日)。人間社会は罪深い。ガザ殺戮はその最たるものだ。飽食の一方で飢え苦しむ人が。世相と犯罪は連動する。嫌なニュースが続く。桜を愛でたいと思うのだが。またも多くの引用を(了)

○断捨離考：物置整理、少し廃却！

【後記】人は人に優しくなれないか？ HP 転載



<ムスカリ>29日撮影



<シクラメン>29日撮影

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com